大正大学　地域構想研究所研究紀要

「地域構想研究」の原稿作成例 （タイトル部分）

氏名部分１、連名２

１大正大学　地域構想研究所　研究員 （所属部分）

２豊島区役所　地域連携推進部（仮名）課長 （所属部分）

（要旨）このファイルは「地域構想研究」の投稿用原稿（和文）を作成するために必要な、レイアウトやフォントに関する基本的な情報を記述しています。

この要旨を含め、タイトルの部分の幅は本文よりも左右1cmずつ狭くします。要旨のフォントは明朝体11ptを用いて下さい。要旨の長さは10行以内です。要旨の後に１行空けて、キーワードを数語、Times-Italic 10ptのフォントで書いて下さい。

**キーワード:** 和文，５つ以内，MSゴシック，10pt

**１．はじめに**

投稿原稿の段階で本MSWordのソフトウェアをご使用し、本見本を参考に作成をお願いします。厳密なフォーマットに従っていただく必要はありませんが、概ね見本に従って作成していただくことを推奨します。

このファイルでは、以下それぞれの項目に対する書式を示していきます。

**２．書式・レイアウト**

（１）書式

タイトルページは２つの部分で構成されます。

（ａ）タイトル部分（題目、著者、所属、要旨、キーワード） ：横１段組

（ｂ）本文部分 ：横２段組

　また、各項目の書式は以下になります。

・タイトル：ゴチック体20ptフォント

・著者名：MS明朝12ptフォント

・著者所属：MS明朝9ptフォント

・要旨：MS明朝11ptフォント、10行以内

・キーワード：和文，５つ以内，MSゴシック，10p

（２）本文部分のレイアウトとフォント

本文は２段組で、上下左右のマージンは22cmずつ、22字×42行。本文にはMS明朝体10.5ptのフォントを用いて下さい。日本文の句読点は、「、」「。」として下さい。

（３）ヘッダとフッタ

ヘッダとフッタには何も書かないで下さい。

**３．第１レベルの見出し**

第２ページ以降の通常のページはタイトルページの本文部分と同じレイアウトとフォントで本文を作成します。

・第１レベルの見出し（章）はゴチック体12pt太字とし、２．などの数字に続けて書きます。また、本見本のように見出しの上下にスペースを空けます。

**（１） 第２レベルの見出し**

第２レベルの見出し（節）もゴチック体10.5pt太字で、（４）などの括弧付き数字をつけて示します。見出しの上だけに１行程度のスペースを空けて下さい。

ａ） 第３レベルの見出し

第３レベルの見出し（項）は、括弧付きアルファベットを付けたゴチック体10.5ptで、上下には特にスペースを空けません。第３レベルより下位の見出しは用いないで下さい。

表－１ 表のキャプションは表の上に置く。このように長いときはインデントして折り返す。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| Specimen No. | Heights (cm) | Width (cm) |
| 123 | 145.5175.5190.0 | 25.040.065.5 |

**（２） 脚注及び注**

脚注や注[[1]](#footnote-1)はMSWordのソフトウェアの「参考資料」メニューから脚注の挿入を指定してください。脚注のあるページの下部にゴチック体9pt挿入します。

**４．図表中の文字及びキャプション**

**（１） 図表の位置**

図表はそれらを最初に引用する文章と同じページに置くことを原則とします。原稿末尾にまとめたりしてはいけません。図表の横幅は、「２段ぶち抜き」あるいはこのサンプルの表－１や図－２のように「１段の幅いっぱい」のいずれかとします。図表の幅を１段幅以下にして図表の横に本文テキストを配置することはやめて下さい。図表と文章本体との間には１行程度の空白を空けて区別を明確にします。

**（２） 図表中の文字及びキャプション**

図表中の文字や数式の大きさが小さくなりすぎないように注意してください。特にキャプションの大きさ（9pt）より小さくならないようにして下さい。

**５．参考文献の引用とリスト**

参考文献は著者のアルファベット順に番号を振り、すべてを原稿の末尾にまとめてリストとして示し、脚注にはしないで下さい。

参考文献

1) Hill, R.: A self-consistent mechanics of composite materials, J, Mech. Phys. Solids., Vol.13, pp. 213-222, 1965.

2) Blevins, R.D.: *Flow-Induced Vibration*, 2nd ed., Van Nostrand Reinhold, New York, 1990.

3) Karniadakis, G.E., Orszag, S.A. and Yakhot, V.: Renormalization group theory simulation of transitional and turbulent flow over a backward-facing step, *Lasrge Eddy Simulation of Complex Engineering and Geophysical Flows*, Galperin, B. and Orszag, S.A. eds,, Cambridge University Press, Cambridge, pp.159-177, 1993.

4) ファン,Y.C.: 個体の力学／理論,大橋義夫、村上澄男共訳、培風館、1970.

5) 土田建次、木村 一： 版下原稿スタイルフォーマットの作成について、土木学会論文集、No.333/II-99, pp.20-30, 1994.

(2009.3.26受付)

(2009.10.26受理)

1. 脚注の挿入 [↑](#footnote-ref-1)